

稲作だより

～第3号 育苗・本田準備編～

高温予報！温度管理に細心の注意を!!

4月9日発表の東北地方の1か月予報（4月11日から5月10日）では、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。ハウスは早めに解放し、苗のヤケや伸ばしすぎに注意しましょう！

～育苗期～

1 健苗育成のための温度と水管理 《高温障害に注意!!》

- 気温の低い日でも、日が当たると閉め切ったハウス内はすぐに高温になります。
- 施設内温度（特に苗箱付近）を確認し、朝8時前までに換気しましょう。

◇温度管理の目安

稚 苗 育 苗（育苗器で出芽する場合）	中 苗 育 苗（無加温で出芽する場合）				
	昼間	夜間	昼間	夜間	
出芽期（2日間）	30～32℃		出芽揃いまで	20℃以上	
緑化期（3日間）	20～25℃	10℃以上	出芽期～1.5葉期	30℃以下	5℃以上
1.5葉期以降	15～20℃	5℃以上	1.5葉期以降	15～20℃	5℃以上

- かん水は、気象を考慮して一日に必要な水分を午前中に与えましょう。
- 低温時や夕方のかん水は、床土の温度が下がるとともに過湿状態になり、根張り不良や病害発生の要因となります。

2 育苗期に発生する障害

- 温度管理やかん水を適切に行い、病害等の発生を防ぎましょう。
- 苗の地際部や根周辺のカビ、生育異常等がみられたら、早めにご相談ください。

◇育苗時の主な病害、障害の原因と対策

原因菌	症状	原因	耕種的対策
リゾプス	覆土の表面や種籾のまわりに白いカビ	出芽期間中の高温、緑化開始後の低温	高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する
トリコデルマ	地際部に青緑色のカビ	水分不足、土壌pH4以下、出芽時の高温	高温を避ける
フザリウム	地際部に白または紅色のカビ	低温、乾燥・過湿の繰り返し	低温を避ける、過湿、過乾燥にしない
ピシウム	2葉期以降、葉先が巻いて萎れる	過湿、低温、土壌pH6以上、厚播き	過湿にしない
もみ枯細菌病 苗立枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化枯死、坪枯れ	高温、多湿	高温多湿にしない 発生した場合は苗を処分

※ばか苗病は、発生したら直ちに抜き取り、抜ききれないほど発生した箱は使用しない。

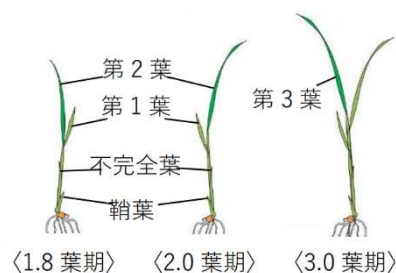
☆春の農作業事故防止啓発運動展開中（4月1日～6月10日）

あせらず、ゆとりを持って農作業！みんなで声掛け、農作業事故ゼロに！

○育苗土に緩効性肥料（中苗一発など）を使用していない場合は、下表を目安に追肥を行います。

◇苗の種類ごとの追肥時期と施肥量の目安

苗の種類	追肥時期	施肥量
稚苗	1.8 葉期	窒素成分 1g/箱
中苗	2.0 葉 3.0 葉	



○高密度播種では、移植3日前に窒素成分1g/箱程度を施用しましょう。

～本田の管理～

1 気候変動に負けない本田準備 《土づくり、作土深の確保》

○ケイカル・ようりん等土づくり肥料を積極的に施用しましょう。

施用量の目安

ケイカル：120kg/10a 程度

ようりん：30kg/10a 程度

○作土深を十分確保することにより、登熟期の高温等への抵抗力が高まります。
耕深は15cmを確保しましょう。

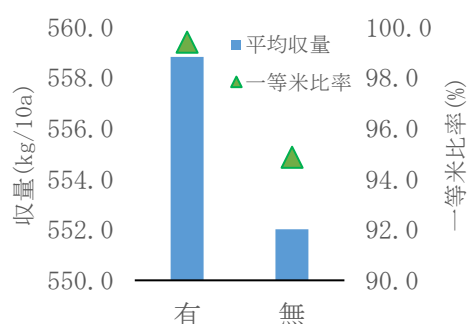


図 土づくり資材の有無による収量・品質 (R6 つや姫チェックリストより)

2 適正な基肥施用

○下記の目安を参考に、圃場の地力に合わせて適量の施肥を行いましょう。例年、葉色が濃い、屑米が多い圃場では、窒素を1～2割減らします。

◇一般田での基肥量の目安（窒素成分 kg/10a、分施肥系の場合）

品種名	基肥	品種名	基肥	品種名	基肥
はえぬき	5～6	あきたこまち	3～5	コシヒカリ	2～3
つや姫	3～4	ササニシキ	3～4	山形95号	4～5
雪若丸	4～5	ひとめぼれ	3～4		

○側条施肥を行う場合は、全層施肥より2割程度減肥します。生育中期の肥切れが心配される場合は、全層施肥との組み合わせや緩効性肥料を用いて対応しましょう。

○一発施肥の場合の施肥窒素量は、各品種の施肥基準の基肥+追肥の合計量を上限とします。

米づくりのLINEをリニューアルしました！

稲作だよりや研修会の案内など、その時期に必要な情報をタイムリーにお届けします。

右のQRコードを読み取り、登録の上、ご活用ください。

